

2025-26年度 第2650地区スローガン
「未来へつなぐ」

第2650地区〔1961.3.28創立〕

YAMATOTAKADA ROTARY CLUB

会 長	山 田 博
副 会 長	安 田 志 郎
幹 事	木 原 常 裕
会報・資料委員長	酒 本 良 司

クラブHP <http://yamatotakadarc.org/> アドレス ytrotary@abelia.ocn.ne.jp

地区HP <http://rid2650.gr.jp/> Facebook <https://www.facebook.com/yamatotakada.rc/>

例会日時：毎週火曜日 12時30分 例会場所：経済会館 3階大ホール
事務所：〒635-0095 大和高田市大中 106-2 経済会館 4階 TEL 0745-52-4366 FAX 0745-23-3823

第16回(通算3056回)2025年(令和7年)11月11日号

幹事報告

◎理事会のご報告

1. 青少年奉仕委員会事業 承認
11月9日(日)當麻寺中之坊写経・写仏事業について、現状報告をいただきました。
2. ポリオ根絶活動募金のお祝いについて 承認
3. 職業奉仕委員会事業について 承認
エッセンシャルワーカー表彰並びにこども食堂事業を行うことについて。
4. 会員退会の件 承認
植野昭三会員

◎移動例会のご案内

11月11日(火)當麻寺奥院
私の車に7名程度乗り合わせできますので、経済会館12時出発に間に合うようにお越しください。

◎委員会別情報集会のご案内

11月11日(火)A班

ゲスト

小崎 学様(第2650地区ガバナー)
吉田勝亮様(第2650地区ガバナー補佐)
小滝 寛様(第2650地区幹事長)

誕生日祝

杉垣輝樹会員(11月 6日) 佐藤佳雄会員(11月 7日)
川村英亮会員(11月11日) 吉川利幸会員(11月13日)
上田麻子会員(11月15日)

結婚記念日祝

辻 修会員(11月 4日) 吉岡寛人会員(11月 8日)
山本忠行会員(11月21日)

創業記念日祝

吉川雅章会員(11月 8日) 酒本将稔会員(11月12日)

委員会報告及びその他報告

◎雑誌・IT委員会 一ノ坪英二副委員長
今月号の『ロータリーの友』をご紹介します。
「インターアクター未来への羅針盤」という記事が6ページからございます。18ページの「ロータリーあるある相談室」にパワーポイントに関する記事がございます。

ニコニコ箱

- ・小崎学ガバナー御一行をお迎えして。 山田 博会員
- ・小崎学ガバナーをお迎えして。
安田志郎会員 木原常裕会員 村島靖一郎会員
中井隆男会員 吉田 暁会員 甲村佑男会員
池木啓仁会員 樫根正起会員 辻 修会員
杵村喜芳会員 河村憲一会員 黒松 健会員

本日の例会(11月11日)

移動例会(當麻寺奥院)

物故会員供養例会

次回の例会(11月25日)

クラブフォーラム(職業奉仕)

エッセンシャルワーカー表彰

11月4日の例会報告

会長の時間

本日はガバナー公式訪問です。小崎ガバナー、小滝幹事長、吉田ガバナー補佐におかれましては、大変お忙しいところお越しいただきありがとうございます。心より歓迎申し上げます。

10時半から、ガバナー御一行をお迎えして懇談会を開催し、役員、出向者の方々と交えて、いろいろとお話をさせていただきました。RI会長の方針、あるいはガバナーの方針をいろいろ勉強させていただきました。

そういった方針の一部に、今までのロータリーになかった点が何点かございます。その1つは、ロータリーで行う事業は1年ごとの事業ということでしたが、継続性のある事業を考えると、3年でもいいのではないかというご意見です。これは大変ありがたいことだと思っています。

そして、当クラブの問題としては、やはり会員増強と、65周年を迎えての活性化というのが大変重要なテーマになっているということをお知らせしました。

また、私どもからの要望としては、米山奨学会については、できる限り多様な国の方をお迎えしていただきたく、また我々としても歓迎したいというふうにお伝えしております。

そしてもう一つは、現在、長期ビジョン検討委員会で議題が上がっておりますけれども、危機管理対応について、私たちのクラブとして将来を見据えてどうすればいいかということをご指導いただきました。

午前中の懇談会はそのような内容でした。本日の例会ではガバナーアドレスを頂戴いたします。クラブ概況報告書の内容や、2週間前のクラブアッセンブリー等の内容も含めてご指導を頂戴したいと思いますので、皆様におかれましてはご静聴の程お願いいたします。

4つのテスト〔言行はこれに照らしてから〕

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

田中康正会員 林 輝一会員 木下庄司会員
世古千代子会員 村野淳二会員 酒本將稔会員
吉岡弘修会員 吉川雅章会員 山下精久会員
西田陽昭会員 船木克容会員 瀧本栄一会員
村島靖基会員 清水良彦会員 松村實昭会員
当麻泰己会員 上田麻子会員

・大和高田市選奨式にて功労賞を頂いて。
鈴木勝士会員

・大和高田市選奨で功労賞を頂きました。
脇本吉清会員
・誕生日祝を頂いて。晴れて高齢者の仲間入りです。
お手柔らかにお願いいたします。 牧浦 徹会員
・小崎ガバナーをお迎えして。誕生日祝ありがとうございます。
杉垣輝樹会員 吉川利幸会員
・小崎ガバナーをお迎えして。結婚記念日祝を頂いて。
俵本和実会員

ガバナーアドレス

第2650地区ガバナー 小崎 学 様

ただいまご紹介いただきました、国際ロータリー第2650地区、2025-26年度ガバナーを務めさせていただきます。よろしくお願ひいたします。



本日、大和高田RC様に参りまして、先ほど懇談会を行わせていただきました。山田会長をはじめ、役員の皆様、ロータリーのことを大変よく勉強されているというのがまず実感でございます。

そして、本日は月初めの第一例会でございますけれども、皆様方を見ておりますと、『ロータリーの友』や『ガバナー月信』をちゃんと手元に置かれて、食事を終えて後、ずっとご覧になっております。他のクラブではなかなかありそうでない光景でございます。ロータリー活動というものに対して、大和高田RC様は非常に熱心に、誇りを持って活動されているということがこの一事からでも分かるわけでございます。

そして、本日頂きましたこの週報でございますけれども、クラブアッセンブリーの内容、またフォーラム、こういった内容が克明に記載されております。内容につきましては、帰りの近鉄電車で改めてゆっくり読ませていただきたいと思いますと思いますが、さっと見ましたところ、非常によく自分たちの活動をご理解された中で意見交換をされているなと思えました。

それとともに、吉田ガバナー補佐、ありがとうございます。3年目のガバナー補佐でいらっしゃいますが、実は私がガバナー補佐を研修する地区副委員長をしておりまして、1年目の吉田ガバナー補佐を指導させていただく機会がございました。非常に効果的にご活動いただいていることが読み取れ、吉田ガバナー補佐の実直なお人柄がよく出ており、常日頃私がお願いしていることや、いろいろなロータリーの情報を克明に、的確にご指摘いただいております。

た。まだまだあと半年頑張ってもらわないといけません。ガバナー訪問としては今日が最後でございますので、今日はここで改めて御礼を申し上げます。

私は京都北RCの所属で、京都市の上京区・北区をエリアとしております。いわゆる西陣という辺りが中心でありまして、先ほどの懇談会でも、産業の衰退についてお話が出ましたが、我が京都北RCがテリトリーとしております西陣も、産業の衰退が起きておりまして、かつては100名を優に超えるクラブでありましたが、現在60名になっております。

私は建設業でありますので、どちらかといいますと、クラブの中ではもともと主流の職業分類ではございませんが、私がガバナーにならせていただいているところでもあります。

我が京都北RCからは、私で4人目のガバナーとなりました。一番最初にガバナーになられたのが、学校法人同志社の理事長をなさっていた、秦 考治郎さんでした。1961年から62年にガバナーをなさっていて、私が1962年生まれというご縁もあり、いろいろと秦さんのことを調べさせていただきました。

秦さんがよくお使いになられた言葉に「良心の醸成」がございます。良い心を育みそだてるという意味です。人は皆、良い心は持っている。しかしながら、良い心というものは、自分の中ですべてを支配するものではない、良心というものは常に育みそだて、修練を積まなければ大きくなならない、そういうことをおっしゃっていました。

私はガバナーエレクトになりまして、7月にまず裏千家の千玄室大宗匠の元へご挨拶に参りました。地区の中にはガバナーエレクトとして行う三大研修がございます。地区チーム・ラーニングセミナーは委員会の方々に行う研修で、クラブの会長が参加する会長エレクト研修セミナー(PETS)、そして地区研修・協議会というものがあります。その3つの研修において千玄室大宗匠にご講話を賜りたく、併せて地区大会でも基調講演をお願いしたいと申し上げに参ったわけでございます。

大宗匠は当時101歳でいらっしゃいましたけれども、「小崎君、全ての研修は私に任せなさい。君は1年間しっかり勉強するんだよ」と、そう言って背中をバーンと叩いてくださりました。大きな大きな手の感触はこれからずっと私に残るように感じました。

その基調講演の中で、「平和、平和と人は言うけれども、平和は向こうから歩いてきてくれるものではない。平和というものは自らが求めていかなければやってくるものではない」とおっしゃいました。そして、「私は、平和という言葉を使わなくてもいい、そんな社会を望んでいる。戦闘がない状態だけを平和と言うのではない」と。これはよく国連、RIなどでも使う、積極的平和ということに値するわけであります。

人々は、日常生活の中でいさかいを起こしたり、めめ事を起こします。そんなことが極力少なくなる、そういった状態を本当の平和と言うということを、大宗匠

はおっしゃいました。皆さん、ご家庭でけんかをしていないですか。私はしました。先週ちょっと怒ってしまいました。ロータリーの活動もあり疲れていたもので、ついつい、朝ちょっともめました。人に言っているにもかかわらず、ああいうことはいけないことだと反省をすることで今週は始まりました。

私は、地区の方針というものを立てるに当たり、人は愚かであるからこそ、自分の次の世代にどうやってつないでいけるんだらう、そういったことをやっぱりこれからの世の中、考えていかなければ、次の世代にバトンを渡すことはできないだろうと思ひまして、基本方針を「未来へつなぐ」とさせていただきます。

そんな準備をしている折に、6月5日早朝、当時のRI会長であるステファニー・アーティック氏よりメールが到着しました。読んでみますと、マリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ氏が会長エレクトを辞任したという内容でございました。本日の懇談会でも、山田会長に話せる範囲でその内容をお話いたしました。早朝のことでもございましたので、一体どうなっているのだろうかとお聞きしましたが、同期のガバナーエレクトのグループLINEからいろいろと情報を得まして、丸一日ぐらいかけて大体想像がつくところまでまいりました。

その後、2日たって、水野RI理事からメールが参りまして、RI会長メッセージはそのまま使うというお話がございました。国際協議会で受けた研修内容についてはそのまま使ってくださいとのことでした。これがどうして有効になるのかということで、私は近年のRIの動向について調べてみました。

昨年の10月に国際ロータリーの理事会で、会長テーマを廃止するという議案が承認されております。つきましては、2025年、私の年度からは会長メッセージという形に変わるということであります。1月末にマリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ前会長エレクトが来日された際、日本にいる34人のガバナーエレクトと一緒に面談をさせていただきました。我々は、RIのテーマとメッセージはどうして変わっていくんですかと質問したところ、前会長エレクトは「いや、昔、マジックとかイマジンとか、そういう抽象的なテーマを挙げたけれども、1年ではできなかつただろう」と。「そんなことできもしい、抽象的なことを言っても仕方ない。これからはメッセージとして連続して伝えていくんだ」とおっしゃいました。

なるほどなと思ひ、さらに調べを進めました。2007年にRI事務総長がRI戦略部局というものを作っております。100年経ったロータリーを、今後、未来にどのように展開をしていくのか、時代に合ったロータリーとは何だろうということをRIは考え始め、戦略計画を立てました。コンサルティング会社に依頼し、アンケートを行ったり、近代的な、いわゆる経営方針といひますか、マネージメントの方策を入れていったわけでありませう。このジョン・ヒューコ氏という

事務総長が、いわばRIのCEOとも呼べる方だと言われております。

そして、2010年にRIは中核的価値観というものを定義しました。過去のロータリーはどういうものであったのかということをごここで定義したわけでありませう。時代が変化してもロータリーで変えてはいけないものが中核的価値観です。柔軟性はあくまでも、中核的価値観の範囲内で許されるものでせう。親睦、高潔性、多様性、奉仕、リーダーシップ、以上をもって中核的価値観と位置づけました。

そして、2017年6月にロータリーの新ビジョン表明というものが発表されます。これは、大切なことであり、皆さんお持ちの『ロータリーの友』にもこのことが書かれています。私が今から日本語訳を読み上げさせていただきます。

「私たちロータリアンは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合つて行動する世界を目指しています」。「よいことのために手を取り合おう」というメッセージはこの声明から発せられているわけだ。2017年の新ビジョンを基本にメッセージを今後も作っていくというのがRIの方針だ。本年の理事会でも、やはりこの継続性を確認する議案が承認されております。

そして、2019年に行動計画、いわゆるアクションプランというものが制定されたり、あるいはメーカーキャップを年間で認めるなど、柔軟性がより多く認められました。ローターアクトをRIに加盟するとか、職業奉仕を廃するとか、こういったことがここで言われたわけでありませう。

しかしながら、これというのも、会員増強をしていく上でRIが考えた、いわゆる新しいクラブを作るための柔軟性でありますので、我々が今、行っていることが、これでいける、まだまだやるんだとお考えであれば、クラブはこれを導入しなくてもよいわけでありませう。皆様方が選択していただければよいと私は判断しております。

それでは、私が未来のクラブづくりについて考えていることを少しご紹介させていただきます。国際協議会でRI会長は次のように語られました。「ロータリーの最大の財産は会員です。歴史や実績ではなく、地球上で最も有能なボランティアチームとして、私たち一人一人の存在にこそ価値がある」とおっしゃられました。そして、彼は、継続性、革新、パートナーシップを柱に、クラブの活性化と会員増強を呼びかけました。

その中にも非常に印象的な言葉がありました。「すべてを同じままに保つには、すべてを変えなければならない」。変化の中でこそ、クラブの本質を守れるという強い意志の表れでありました。

それでは、クラブにおいてどのようなことが、これから未来につなぐために必要かということになります。クラブの活力は人と人とのつながりから生まれます。

多様な価値観を尊重し合いながら、共通の目標に向かう、この絆こそがロータリーの強さだと信じております。

先ほどの懇談会の中で、山田会長は委員会活動が大事だということをおっしゃいました。私も同感であります。委員長、役員だけでやるのではなく、みんなを巻き込んでやっていく、そして地域社会とも連携をしながら運動していく、それが公共イメージの向上にもつながるのではないかなと私は思います。

新聞に1回載っても、その日で終わってしまいます。テレビもまた同様です。それよりも地域に根差した活動を行う、これぞ会員増強の秘訣ではないでしょうか。

成長の鍵は人材の育成にあります。例会や奉仕活動、青少年との交流の中に私たちは学び続けます。次の世代に、言葉ではなく背中中で伝える、クラブの未来づくりになるのだと思います。

昨年、ローターアクトの地区代表に、大和高田RACの岡本会員になっていただきました。非常にすばらしい好青年であります。また、彼ら彼女らからも学ぶことは多くあると私は思います。ローターアクトとの交流についても、いわゆる労働力のような扱い方ではなく、プロジェクトに参画していただくのがよいと思います。例えば奉仕委員会に委員として出ていただいてもいいのではないかと、先ほどの懇談会でもお話をさせていただきました。

本年、地区では、奈良RACの方に地区委員としてグローバル補助金委員会に出向していただいております。他のクラブでもまたこんなこともできるのではないかと考えております。

そして、社会は日々変化しています。クラブもまた、こうあるべきに縛られず、変化していくべきだと思います。守るためにこそ、変える勇気が必要だと私は思います。

そして、奉仕活動はクラブの鏡です。奉仕活動の計画、実行にはそのクラブの姿勢が映し出されます。誰のために、なぜ、何を、いつ、どこで、どうやってやるのか、この6つの問いを共有し、事業の質と信頼を高めていただければと思います。

これも先ほど会長からお話がありましたが、3年計画を立ててみるというのは、非常にいいのではないかなと思います。今年何か事業をやったとします。次の事業の内容を今年考えるわけですが、どんな団体とつながれるのか、どんなふうにやればより効果が出るのか、そういった構想を次の年度へ次の年度へと渡していくことも必要ではないかなと思います。それが、いわゆる国際ロータリーで推奨しております、3years rolling targetということだと思います。継続性を保ち、明確な目標を挙げ、地域に根差した行動力

で行い、次のリーダーと連携していただければと思います。

そして、時代に合ったクラブの運営も大切だと思います。委員会を非常に特徴的に、いろいろと構成されていますので、その点については、大和高田RACは非常に評価できるクラブだと私は思っております。

危機管理体制の整備というのもメンバーの安心につながると思っていますので、これもまた実行に移していただければと思います。

そして、会員増強は永遠のテーマです。これはもう、会員全員で行っていただければいいのではないかなと思います。安定した基盤のあるクラブというのは、もうどこにもございませんので、常に会員増強というテーマは、クラブが存続する以上、変わりのないことだと思います。

それから、10月24日は世界ポリオデーでございましたが、毎日がポリオデーというようなお考えを持っていただければと思います。8月にアフガニスタンで大きな地震がありました。現在、タリバン暫定政権下でどのような状況になっているか分からない状況であります。日本にもインバウンドの方がたくさんいらしておりますので、感染症対策は人ごとではありません。ワクチンを接種するためには、その地域へ人が行かないといけません。ポリオプラスボックスにお金を入れるのは、ポリオのワクチンを買うためだけでなく、そういった支援にも使われるということもご理解賜ればありがたいです。

それでは、ポール・ハリスが1913年1月に述べた言葉をご紹介します。「私たちは、いつまでも成長して止むことはないでしょう。世界は絶えず進化しています。そして、私たちは世界とともに変化する心構えがなければなりません。ロータリーの物語は何度も何度も書き換えられなければならないでしょう」。

結びに当たりまして、一言申し上げます。変化を恐れず、仲間を信じ、学び合い、支え合う、そうした歩みの中に、未来につながるクラブの姿があると信じます。クラブの未来は、私たち一人一人の行動にかかっています。共に学び、共に奉仕し、次の世代にバトンを渡していこうではありませんか。ご清聴ありがとうございました。

御礼 山田 博会長

小崎ガバナーにおかれましては、本日はご指導いただきありがとうございました。活動を進めていく上で大変助けになるお話を頂きました。これから各奉仕活動等が本番を迎えますので、頑張っていきたいと思っております。米山奨学会や危機管理、また地区の方針やRIの方針についても、いろいろと勉強になりました。今後も引き続きご活躍の程ご祈念申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

出席報告	会員総数	出席義務会員数	義務会員出席数	義務会員欠席数	義務会員MU	出席免除会員数	免除会員出席数	免除会員MU	出席率
11月4日	87	55	44	11	0	32	23	0	85.90%
10月28日	87	55	48	7	0	32	22	0	90.90%
10月21日	87	55	45	10	5	32	26	0	92.83%

※食品ロスの削減に努めましょう。(10月28日の弁当残数は5個)